



あと一步の向上に向けた取組

函館市立亀尾中学校

生活習慣・学習習慣の形成 基礎的・基本的な知識・技能の習得 望ましい学習態度の育成 学校組織・指導体制の改善

1 学力 向上の具体的な方策

- ①徹底した個に対する学習支援と補充・発展的学習体制づくり
- ②全員（小中合同）による研究授業の公開や小中連携授業の導入

2 取組の概要

<①に対して>

- ・朝学習を生徒会活動と連携させ、自主的計画的な学習の取組を継続させる。
- ・放課後や長期休業中における補充・発展的な学習や個別指導の充実に努める。（チャレンジテストの活用。）
- ・英検等への積極的な取組によって、学習意欲の向上を図る。



<冬休みの補修の様子>

<②に対して>

- ・「考えをわかりやすく伝える力の育成」～読む・書くを通して向上する表現力を求めて～という研究テーマで、小中全職員が授業公開をして交流協議を行うなど、校内研修の深化に努める。
- ・小学校の外国語活動・理科（小4）・社会（小6）・音楽（小3以上）・習字（小3以上）などでは、中学校教員が乗り入れて授業をするなど、小中が連携する指導体制をとり、発達段階に応じた指導について理解を深められるよう工夫する。また、学力・学習状況調査の分析を小中が共有し、長期的な視野をもった指導に努める。
- ・特別支援を要する子に対しては、職員間はもちろんのこと、保護者や関係機関（市教委・南セ等）と積極的に連携しながら、より効果的な指導に努める。

3 成果（○）と課題（●）

- 長期休業中や放課後に、受け身ではなく課題意識をもって補充・発展的な学習に積極的に参加するなど、前向きな取組が見られた。
- 小学校への乗り入れ授業を通して、発達段階に応じた指導や教材の提示を工夫することによって、生徒の学ぶ意欲が高まった。
- 学習面で支援が必要な生徒も、漢字の小テストなど地道に取り組める課題を与え指導することで満点が取れ、その自信から意欲が高まるなど、成果が見られた。
- 一部の生徒ではあるが、家庭でのTV・PCの取り扱いについて課題が見られ、家庭学習が定着していない。保護者との連携をいっそう強化したい。